

地域での体験活動等の充実に向けた工夫・改善(案)

学校週5日制導入後、各地域での体験活動等の取組が定着・充実してきている状況にある一方で、先のアンケート調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後、地域での体験活動等への参加を促進し、子どもたちの「生きる力」(社会性)をはぐくむ方策として、モデル的に示したものである。

◆地域での体験活動の現状と課題等

現 状 ・ 課 題	課題への対応の視点
<ul style="list-style-type: none"> ▶小学生・中学生・高校生の各段階で地域での体験活動への参加率が低い ▶多くの中学生・高校生はクラブ活動に参加 	→子どもの発達段階・生活実態に応じた参加形態・内容の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ▶地域での体験活動等への参加したい家庭(保護者・子ども)への情報伝達が不十分 	→各種の取組の情報が各家庭に届くような周知方法の工夫 →各団体の活動情報を一括して興味に応じて選択し、参加できるような周知方法等の工夫・改善

◆対 応

対応方向 子どもの発達段階・生活実態に応じた参加形態・内容等の工夫

■子どもたちが「生きる力」(社会性)を身に付けるという観点から

発 達 段 階	参 加 モ デ ル	工 夫 の 視 点
小 学 生	受動的参加	・とにかく体験活動に参加させる (参加形態：家族、クラスの友達) (内 容：興味関心のあるもの) ↓ ・体験活動の運営等にも参画させる (参加形態：生徒会・部活動単位) (内 容：活動の企画運営等)
↓	↓	
中 学 生	主体的参加	
↓	↓	
高 校 生	主体的参画	

対応方向 保護者や子どものつながりに着目した周知方法等の工夫

■対象に応じた周知方法の改善策

周知対象	ア プ ロ ー チ	連 絡 体 制
家 庭(保護者・子ども)	地域社会のつながり	町内回覧板、PTA会報など
子ども	学校でのつながり	学級・学年だより、クラブ・生徒会

※クラス担任や部活動顧問から参加呼びかけなどにより、子どもの参加促進につながりやすい。

対応方向 興味に応じて選択し、参加できる情報提供方法の工夫

■各種団体が実施しているスポーツや体験活動の情報をコーディネートする仕組みづくり

▶ 既存の組織を活用した仕組みの構築

自治会や「京のまなび教室」、「学校支援地域本部」や「総合型地域スポーツクラブ」等がそれぞれに提供している情報を地域の実態に応じて、1つの団体に取りまとめ、家庭や子どもに周知

▶ 新たな仕組みの構築

各種団体の活動情報を調整し情報提供できる人材(コーディネータ)を新たに地域又は学校に配置し、家庭や子どもに周知

地域における体験活動等の充実に向けて

～発達段階に応じ、12年間を見通した子どもの育成～

視点

内容・参加形態等の工夫

小学生

中学生・高校生

体験活動の楽しさ

地域貢献意識・主体性の育成



【内容等の工夫】

- ◆ 子どもの好奇心を喚起する内容を工夫(ポイントは、対象が小学生なので、楽しむことが重要)
- ◆ 子どもが内容を選択して参加できる実施方法の工夫

【実施時期・場所・参加形態の工夫】

- ◆ 授業実施後に、学年単位、クラス単位で多様な体験活動を実施
- ◆ 親子で参加できるような工夫も必要
- ◆ 広報・周知は、地域の回覧板や学校を活用
- ◆ 場所は、学校、公民館、資料館等の文化施設、社会教育・体育施設

【内容等の工夫】

- ◆ 中学生段階では、楽しさだけでなく、子どもの主体性、地域貢献意識をはぐくめるような、内容を工夫
地域の行事(町民運動会、地域イベント等)に参加
花づくりに取り組み近隣の公共施設や福祉施設等に配布→地域貢献
- ◆ 高校生段階では、経験を活かし、体験活動等に積極的に運営スタッフとして参画させる等の工夫

【実施時期・場所・参加形態の工夫】

- ◆ 部活動単位又は生徒会で参加できるような、参加形態の工夫
- ◆ 広報・周知は、地域の回覧板や部活動、生徒会など活動を活用

規範意識の育成、コミュニケーション能力など、社会性の育成

土曜授業等が実施された場合の地域での体験活動等への影響・工夫（案）

地域での体験活動等の観点から、土曜日授業を円滑に実施するための留意すべき事項を整理するとともに、土曜授業等の実施日における体験活動の充実方策や発達段階に応じた事業をモデル的に示したものである。

土曜授業等が地域での体験活動に及ぼす影響等

影 響	実施に当たっての留意点
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 土曜日に実施されている地域での体験活動等と日程が重複 ▶ 毎週実施されているスポーツ少年団等の活動や市町村単位、地区単位、府レベルで実施実施されている公式試合等と日程が重複 	<ul style="list-style-type: none"> → 関係団体への十分な周知、調整が必要 → 市町村、府レベルで土曜授業等の実施日を統一することが必要（特に、スポーツ活動との関係）

土曜授業等における地域での体験活動等の充実方策

- 土曜授業等の実施日を「体験デー」（クラス・学年毎に）と位置づけ、授業等終了後、様々な体験活動等を同時に開催

実 施 モ デ ル	期待される効果	課 題
<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">土曜日授業等</div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">（内容例）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">自然体験活動コース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">スポーツ活動コース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">科学体験等学習コース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;"> <p style="text-align: center;">（実施主体）</p> <p style="text-align: center;">「京のまなび教室」 「総合型地域スポーツクラブ」 小学校 P T A 高 校 地域の団体 等</p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px; display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">（中学・高校生）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">クラブ活動</div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地域活動へ参画</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションの低い子どもの参加しやすい。 ・体験活動等への参加向上 ・多様な活動を体験できる ・クラス単位で参加できる ・興味に応じて参加できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもを受け入れられるとは限らない。 ・参加を強制できない

※ 小学校のクラス単位、学年単位で担任が呼びかけ、参加を促す、一緒に参加するなどの工夫も効果的。

※ 次の地域での体験活動の広報の場としても活用することも効果的。

- ▶ 体験活動等の事業例：別添のとおり

<地域での体験活動等の取組例>

[自然体験活動]

事業名	川の生き物採集探検事業	対象	小学生・中学生 高校生
事業の内容	<p>地域の川に生息する生き物を採集し、どのくらいの種類の生き物が生息しているかの調査を通して、環境問題を学習する体験活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆まなび教室の運営スタッフに加え、地元の生物部（クラブ）の高校生にもボランティアスタッフとして参加を依頼し、子どもたちの支援にあたる。 ◆地元の高齢者にも積極的な参加を呼びかけ、子どもたちの活動を支援する中で、昔の川遊体験談や川の水質の変化等について高齢者から子どもたちに教えてもらう機会とする。 ◆生き物を採集後、生物部の高校生と採集した生き物の名前等について調べ、発表の機会を設定する。 		
参加形態	小学生、保護者、地域住民、高校生ボランティア		
実施主体	市町村、公民館、地域の協力者、自治会等		
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民と子どもとの交流促進、地域の活性化につながる。 ◆小学生：生き物採集を通して自然への関心が高まる。 高校生や年長者へのあこがれ、将来の目標につながる ◆高校生：小学生に教えることを通じて自己有用感につながる 		
実施上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆都市部では実施場所の選定が困難 ◆生物部高校生ボランティアの確保（高校と連携） 		

[スポーツ活動]

事業名	地域の様々な団体と連携したスポーツ体験活動	対象	小学生 中学生・高校生
事業の内容	<p>総合型地域スポーツクラブ、老人会等が連携し、子どもたちが様々なスポーツ体験活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆体験活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・「キンボール」「ペタンク」等を中心としたニュースポーツ ・グラウンドゴルフ ・サークル、総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツ活動 ◆体験する種目によっては、子どもたちと団体とが対戦し、子どもたちとの交流を深める。 		
参加形態	地域住民、小学生		
実施主体	自治会、総合型地域スポーツクラブ、公民館サークル		
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域住民と子どもたちとの交流促進 ◆地域の他団体と連携することにより地域ネットワークの強化 		
実施上の課題	◆他団体との日程調整（学校活動と位置づけるなどの工夫が必要）		

[科学等体験学習]

事業名	企業等連携した体験活動	対象	小学生 中学生・高校生
事業の内容	<p>まなび教室運営委員会が企業関係者、大学教授、専門技術者等を特別講師として迎え、子どもたちの体験活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆企業等の特色を生かした、体験活動を実施 ◆体験内容例 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア講座（スカイキャストによる機内サービス体験） ・紙ヒコーキ教室（JAL） ・爬虫類（ヤモリ、トカゲ、ヘビ等）の話（大学教授） ・食育バターづくり（食品企業との連携） ◆運営スタッフは、地域のボランティア、まなび教室関係者 		
参加形態	地域住民、小学生		
実施主体	市町村、まなび教室運営委員会、地域ボランティア		
事業の実施による効果	◆さまざま分野の仕事の一部を体験することで、キャリア教育にもつながる。		
実施上の課題	◆小学校低学年向けの体験活動が少ない		

[科学等体験学習]

事業名	P T Aによる「親のための応援塾」開催事業と連携した体験活動	対象	小学生・中学生 高校生
事業の内容	<p>まなび教室と就学前の子どもを持つ保護者を対象とした「親のための応援塾」開催事業と連携して子どもたちの体験活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「親のための応援塾」開催日の前半を、まなび教室参加の子ども、新入生親子と一緒に楽しんで参加できる体験活動を実施。 （例：リズム体操、音楽遊び、フラフープ等） ◆後半は、親を対象にした「親のための応援塾」で、P T Aの先輩保護者と新入生の保護者が子育て等について交流。 ◆交流の時間を活用し、まなび教室の関係者から新入生保護者に「まなび教室」についての説明を実施 		
参加形態	小学校就学前園児・保護者、小学生		
実施主体	学校支援地域本部、小学校P T A、公民館サークル等		
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆小学生：入学前に小学校児童と共に活動することで、年長者としての自覚につながる。 ◆家庭：保護者同士のつながりができるなど、家庭教育支援にもつながる。 		
実施上の課題	◆参加者（就学前の子どもがいる保護者）を確保する工夫が必要		

[科学等体験学習] [スポーツ体験]

事業名	高校生による体験活動支援事業	対象	小学生 中学生・高校生
事業の内容	<p>土曜日を活用して、府立高校を地域における子どもの体験活動の場として活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学期に1回以上、土曜日における体験活動を実施 ◆指導は、高校教員等、高校生がボランティアとして支援に取り組む ◆体験活動の分野は、科学実験教室、工作教室、スポーツ教室、文化教室、本の読み聞かせ等 <p>※高校生によるボランティアを原則とするが、内容により可能であれば中学生もボランティア補助として参加</p>		
参加形態	高校教員、高校生ボランティア、小学生		
実施主体	高等学校		
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校生：小学生との関わりの中で自らへの誇りと社会を担う責任の自覚につながる ◆小学生：高校生の姿をみることで、大人へのあこがれ、将来の目標につながる ◆府立高校：自校の教育内容への理解の促進につながる 		
実施上の課題	◆活動の周知方法に工夫が必要		

[地域貢献活動]

事業名	Let's チャレンジ地域貢献	対象	小学生 中学生・高校生
事業の内容	<p>地域の行事（町民運動会、クリーン活動、地域の祭り等）に部活動の一環として参加し、地域貢献意識を育む場とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆部活顧問の指導で、地域のどのような行事に参加するかを、年度当初の部活動年間計画に組み入れる。（各部活年1回程度） ◆参加に当たっては、行事を主催する自治会等と部活顧問が十分な事前協議を行っておく。（当日は顧問等の引率が原則） ◆行事により異なるが、基本的には運営スタッフの役割を担ったり、吹奏楽部の演奏、合唱等の発表を行う等の活動を実施。 		
参加形態	地域住民、中学・高校生		
実施主体	地域の団体（地自治会、青少年育成団体、社会福祉施設等）		
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆中高生の自尊感情の醸成につながる。 ◆多世代交流が促進され、地域の活性化につながる。 ◆地域住民の中高生に対する理解が促進される。 ◆学校と地域社会の相互連携の強化にもつながる。 		
実施上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆部活の公式戦との調整 ◆部活顧問の意識変革 		